ランク変動種

チシマガリヤス

種子植物・イネ目
イネ科

Calamagrostis stricta (Timm) Koeler subsp. *inexpansa* (A.Gray) C.W.Greene

今回評価	絶滅危惧Ⅱ類
群馬県(2022)	情報不足
環境省(2020)	指定なし

評価理由	1地点において数100個体が確認された。生育地点は限られるが、面的な広がった個体群を形成し、現在のところ生育状況も良好である。

適用基準	定量C

主な危険要因	特殊分布、自然遷移 湿原の中で主に周縁部や植生の境界部に生育するため、遷移が進めば衰退するおそれがある。分布域はニホンジカの個体数が多いが、食害は確認されていない。

総産地数	2
現存	1
不明	1
絶滅	0

特記事項	2025年に確認された生育地点は、古い標本記録がある地点とは異なる。なお、標本記録が残る地点では、その後の記録はなく、踏み付けによる裸地化によって著しく衰退したか絶滅した可能性がある。

県内の分布状況	
利根	○
吾妻	
中部	
西部	
東部	

ヤマサギソウ

種子植物・キジカクシ目
ラン科

Platanthera mandarinorum Rchb.f. subsp. *mandarinorum* var. *oreades* (Franch. et Sav.) Koidz.

今回評価	情報不足
群馬県(2022)	絶滅危惧IB類
環境省(2020)	指定なし

評価理由	過去に記録されたものの多くが、別の種類に同定された。その結果、確実な生育情報は極めて少なく、絶滅のおそれを評価できるだけの情報が得られなくなった。

適用基準	定性

主な危険要因	自然遷移、園芸採取、動物食害(シカ) 草地や比較的明るい林床・林縁を好むため、遷移による木本やササの繁茂の影響を受けやすい。いくつかの生育地にはニホンジカが侵入し、地表の攪乱が起きている。

総産地数	14
現存	2
不明	12
絶滅	0

特記事項	従来群馬県内で本種とされたものの中で、近年も生存が確認されていると考えられる産地大部分がマンシュウヤマサギソウであることが判明した。過去の標本は数10年前のものが多く、生育地点の特定が難しい場合が多い。

県内の分布状況	
利根	○
吾妻	○
中部	△
西部	
東部	